様式4

プロポーザル提案書

提案 （※下枠の縦横の寸法は変えないでください。） ：A3版ヨコ使い

提出年月日	平成29年　3月　2日
提案事務所名	

受付番号
5

（仮称）矢吹町複合施設基本計画　簡易プロポーザル

「ヨイサ」の掛け声で創る、新たな交流と文化の開拓

［ヨイサ・ヨイヤサ＝弥栄］　秋祭りの掛け声でますます栄える、一層盛んになるの意味。

＜町に人々の賑わいを取戻すために＞この施設が果たす役割は、まず町が一体となって町民の日常生活に寄り添いながら、誰もが気軽に自分らしく利用できる開かれた施設となることです。そこでは様々な人や情報、出来事が出会い交わります。それが大きくなることで文化活動や経済活動の活性化へと繋がり、町に人々の賑わいを取戻します。

先人達のように、ここで様々な新しい分野や領域の開拓がされる施設を目指します。

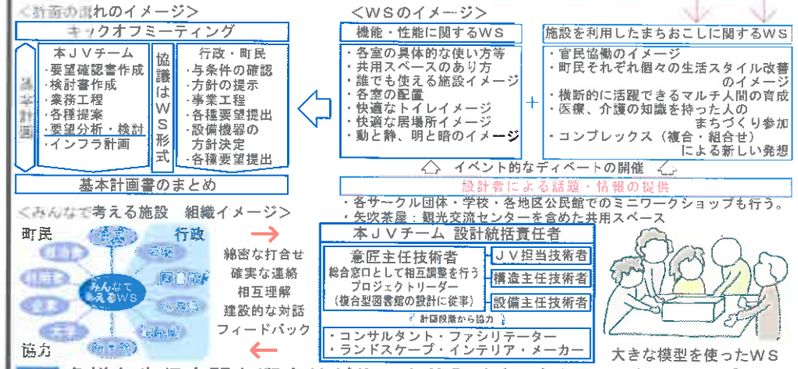
1 ワークショップ（WS）を中心とした対話型の合意形成

テーマ１：基本計画を取りまとめるプロセスについての提案

超高齢社会となった現代、今後益々、町民一人ひとりがまちづくりの担い手として活動するのが重要だと認識されつつあります。個人の長年に渡る経験や知恵・知識、行動力がまちづくりに一層生かされるよう、この交流センターにもう２つの役割テーマを盛り込みたいと思います。

①町民と行政のコミュニケーションが喚起される場

②町民の新しい生活スタイルの創出と同時に町民がまちづくりに参画する拠点としての場



2 多様な歩行空間と溜まりが住民と施設を繋げるランドスケープ

テーマ２：土地利用と施設配置ゾーニングのあり方についての提案

■全方位にシンボル性と正面性を確保しつつ、敷地形状に合わせてボリュームを配置することで、だれにでもわかりやすく利用しやすい配置・動線計画とします。

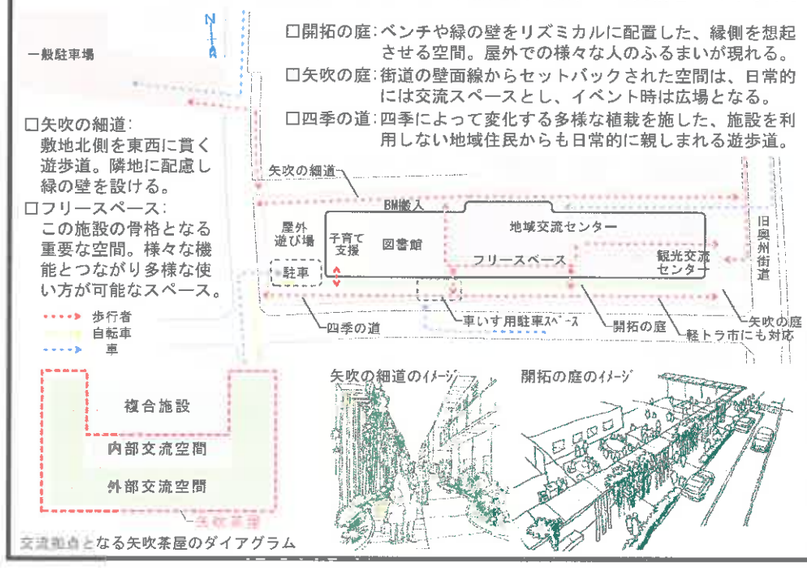
■敷地全体を交流スペースと捉え、建物の周囲をぐるっと回れる歩行空間とし、東側の旧奥州街道から西側の専用駐車場までの南面東西軸上には交流ポイントを設えます。

■１階内部空間と外部交流空間が一体となった集まりやすい場に、フレキシブルに利用できる諸室を配置し、それら内外部の交流空間を矢吹茶屋と命名します。

■各機能を繋ぐフリースペースの充実と、交流ポイント・アート空間として定義します。

■外壁の外側に設える緑と木材による外皮で、気持ちのよい交流空間を創出します。

■通り抜けできる施設とし生活動線となることで、敷地内に賑わいの表情をつくります。



3 「ハレ」と「ケ」様々な場面を想定したフレキシブルな空間を持つ複合施設

テーマ３：各機能および複合施設のあり方についての提案

訪れやすい場所、集まりやすい空間から老若男女の町民や観光客など、多様な人とのつながりが日常的に生まれます。そこでは様々なモノや情報、意見が交流します。

＜複合施設における配慮事項について＞

■複合施設の特徴として、様々な人たちがバラバラな時間帯に利用されることがまずあげられます。

■従って建築計画上は各室の性能・仕様について、細部に渡るシミュレーションが必要と考えています。

■同時に、共用スペースでの人の活動の可能性について、利用者との意見交換も大変重要だと考えています。

■また、設備計画上は、各室利用時間帯の相違による熱ロス、音環境に関する配慮も重要になると考えます。さらには、各室の利用目的又は利用者の年代によって最適な照明環境についての意見交換を重ねます。

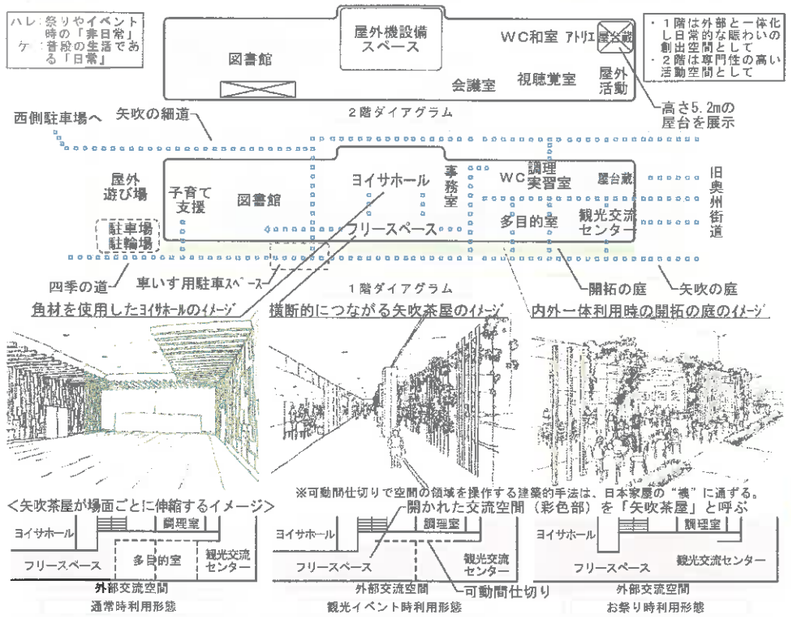


図　書　館

□１階は賑わいを外に発信し、２階は個々の時間を過ごせる静寂空間とゾーニング

□低い本棚は安全性と開放性を併せ持つ

□集中したい時、ゆったりしたい時、利用者が自分の居場所を選べる身近な図書館は、市民の恒常的な利用を促進させる

□教育機関との積極的な共同体制を築き、能動的な学習や教育の場を目指す

□読み聞かせや紙芝居コーナーなどを設け幼少期より本に親しむための環境づくり

子育て世代活動支援センター

□一体空間とし広く見渡せ、柔らかい床や自然素材の使用などこどもの安全に配慮

□こども図書館の本をシェアし相互利用

□授乳やおむつ替えコーナーを設置

フリースペース

□施設全体の骨となり空間を緩やかに繋ぐ

□まちなかギャラリーとして、学校の作品や生涯学習教室で創作された作品、地元作家の作品等を展示する町民ギャラリーとし文化的活動の発表・発信の場となる

□四季の道を通る人から目に入りやすいように配置し建物に入るきっかけをつくる

□ホールで催しの際はホワイエとして活用

□ホールを全面開放すれば一体利用が可能

地域交流センター

□ホールを１階の中央に配置し、多用途の使用を想定した開放的なホールの提案

□中央の事務室は施設全体に目配りがきき利用者に寄り添うサービスが可能な配置

□多目的室は防音性に優れた可動間仕切りにより、フレキシブルな空間利用が可能

観光交流センター

□吹抜けの大空間は屋台蔵との一体空間

□町民も立ち寄れる矢吹茶屋での交流

□イベント時は間仕切りの開放で空間を拡張させ、広場やまちに賑わいを広める

□郷土資料の閲覧など、図書館と連携

□矢吹町の偉人、名誉町民の紹介コーナー

外部交流空間

□矢吹・開拓の庭はオープンテラスとして内外一体利用が可能で様々な催しに対応

□軽トラ市などの既存のイベントの開催にも充分対応できるよう配慮する。

□セットバック空間は、小さな交流スペースと捉え、町に留まれるような空間

防災倉庫・災害対策施設

□災害時の対策拠点・避難所の役割を担う

□防災倉庫には、水や食料、寝具等を備蓄

□炊出しの際は、調理室を開放し一体利用

□雨水貯留槽を設け、トイレ洗浄水を確保

4 周辺環境に呼応し、町に溶け込む意匠計画

テーマ４：環境、意匠、景観形成のあり方についての提案

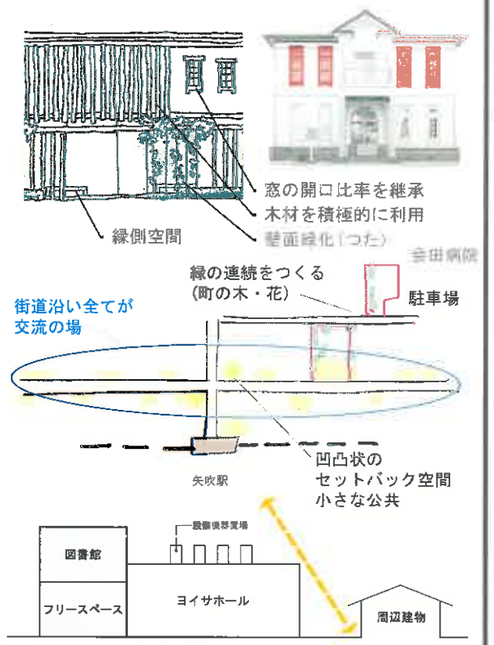
周辺の街並みとの連続性、様々な周辺環境に呼応させながら街並みと呼応し、矢吹町にふさわしい風景との一体感を生み出します。

■宿場町としての昔の街並みは一部を残して消えつつあり、現代の建築とが入り混じり、独自の景観を形成しています。歴史的建築物の特徴を継承し、内外装に地域木材を積極的に利用することで、これからの町の景観をリードするたたずまいとします。

■旧奥州街道沿いの街並みは、凹凸状のセットバック空間が続いてます。そこを小さな公共空間ととらえ、街道沿い全てが交流の場となるような沿道景観を目指します。

■西側駐車場より奥州街道まで緑の連続をつくり、離れた敷地間に連続性を持たせます。また町内各地に点在する緑地と共に良好な景観形成を目指します。

■大ホールを1階に計画し、上部を設備スペースとすることで、建物高さを極力低く抑え、周辺環境へ配慮します。また、室外機等から発生する騒音による環境悪化を抑制します。



5 地球環境とＬＣＣへ配慮したエコロジカルな建築

テーマ５：コスト縮減についての提案

■省エネルギーで建築と自然環境の調和のとれた実現可能な技術の提案

＜パッシブデザイン＞

・南北方向に風の通り道を確保し、自然風を室内に導き入れ、換気・排気を促す

・１・２階共に大きな庇を設ける事により、夏季の日射を遮蔽し、冷房負荷を削減

・外壁・開口部の高断熱化により、暖房負荷の低減、結露・コールドドラフトの緩和

＜アクティブデザイン＞

・地中熱ヒートポンプ方式による冷暖房システムの検討（採熱効率の検討）

・照明器具はLED照明を採用した上で、昼光センサー・人感センサーによる組み合わせで、効率的な管理・運用。また、タスク・アンビエント照明を採用

・雨水をピットに貯留し植栽への散水、トイレ洗浄水への利用

＜再生可能エネルギー＞

・太陽光発電の設置。日常的な利用のほか災害時の対応として蓄電利用も検討

■経済的な構造計画

・単純明快な構造架構計画とし、建設コストの縮減を図ります。構造種別を問わず地域産木材を最大限活用し、物・人・技術の地消を促し地域経済の潤いにも貢献します

6 矢吹茶屋をまちおこしプログラム開発の場としての活用

その他の提案：技を継ぐ・インキュベーションセンターの役割

①まちおこしプログラムの開発

・矢吹産食材を使った商品開発
・矢吹職人のものづくり開発
・町全体をフィールドにした体験型観光開発
・生涯学習を含めた学習に関するプログラム
・スポーツ・健康に関するプログラム

②アクション

まずは各々のテーマごとにお茶会からはじめて
↓
テーマを矢吹町又は，矢吹人に合うメニューに整理
↓
10回―20回―100回―300回と継続させる工夫をする
（やってみなはれ矢吹茶屋）

③プログラム開発スキルアップメカニズム

図書館	ホール	矢吹茶屋
各テーマごとの資料整理	スペシャリスト参加の勉強会	継続的実践ワークショップ

民間会社との提携ミニ産業見本市として利用してもらう

④情報発信とまちおこし開発を継続させるために

いづれかのテーマの会が交互に毎日行われる工夫を
この矢吹茶屋でのお祭りを月に1回行うなど
継続するための工夫をする
まちおこし応援団の結成、まちづくり会社の設立も視野に

以上は一例でありますが、ワークショップと
まちおこしに繋がる交流センターのあり方について、町民自ら何が出来るか等の課題提案したいと考えています。

活動が町全体に広がるイメージ